



農業分野でのICT利用について

2015.02.20

NKアグリ株式会社
代表取締役社長 三原 洋一

- ✓ ノーリツ鋼機グループの食事業を担う会社として2009年に設立

「人々が健やかな暮らしを育むための食を提供する」



- ✓ 所在地：和歌山県和歌山市
- ✓ 従業員：社員10名（農業経験者0） パート約60名（平均50.3歳）
- ✓ 2010年 栽培開始 約5年
- ✓ 約40社の量販店に野菜を流通

植物工場

自社生産

提携生産者



機能性野菜（露地農業）

提携生産者（6県）



1～3年目

4年目

5年目

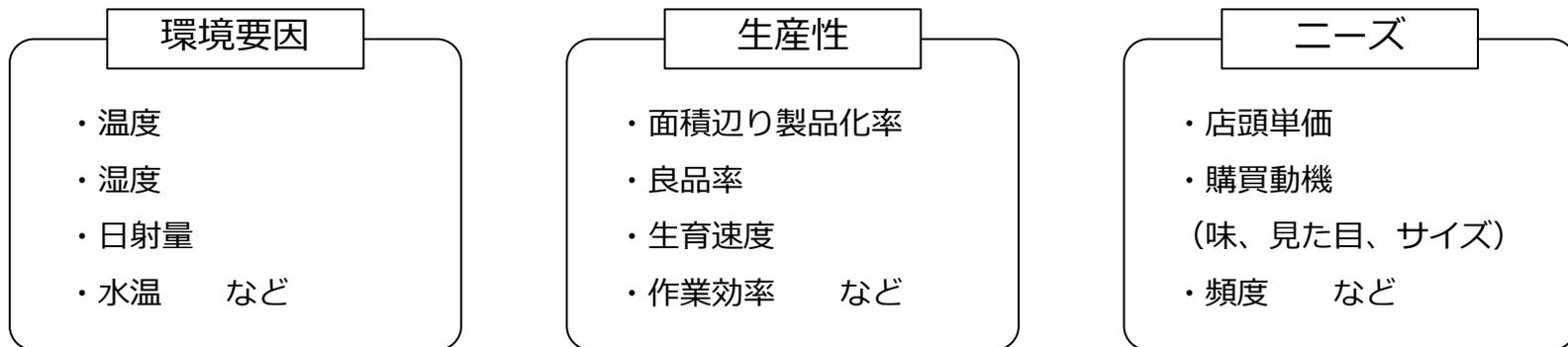
- ✓ 自社植物工場（太陽光利用型）
- ✓ 国内有数の栽培面積（3,000坪）



- ✓ 提携農場



- ✓ 既存に流通している規格を前提に商品をつくらない
(多様化している消費者ニーズとのかい離)
- ✓ まずは試験栽培、試験販売。データを網羅的に収集する



- ✓ 既存規格とニーズのギャップが大きく、生産性が高いものを商品化
- ✓ KPIを設定して予実管理で精度向上



AQUA LEAFシリーズ

重さ
大きさ



安心・安全
食感が選べる
使い切りサイズ

- ✓ 通常のレタスの1/4の重さ
- ✓ 店頭単価約1.5~2倍

→重さあたりでは約6~8倍の価値



リコピンニンジン「こいくれない」

形の揃い



色、味（甘い）
機能性成分（リコピン）

- ✓ 良品率約25%向上
- ✓ 店頭単価約1.5~2倍

✓ 2014年5月より サイボウズKintone導入



✓ 導入の契機 デモを見る機会があった

✓ 導入の理由

→ 必要最小限、安い（15,000円/月 程度）

→ 業務ごとのアプリが自作できる

→ 承認プロセス、履歴管理で内部統制にも対応



✓ 導入から3ヶ月で、約40の業務を移管

営業

- ・出張報告
- ・在庫管理
- ・営業報告
- ・営業資料
- ・売上管理
- ・顧客情報
- ・原価管理
- など

生産

- ・収穫実績
- ・追肥記録
- ・生産管理
- ・環境記録
- ・トラブル
- ・商品開発
- ・保守記録
- など

管理

- ・経費精算
- ・小口精算
- ・契約管理
- ・規定管理

導入効果① KPIが社内に浸透。全社的な指標に

- ✓ KPIを全社で毎日共有 スマートフォンで見ながら移動中に議論

The screenshot displays a mobile application interface for harvest performance reporting. The main content is a report titled "調整・収穫作業実績報告書" (Adjustment/ Harvesting Work Performance Report) for the date 2015-01-18. The report includes a table with columns for harvest date, total production bag count, creator, and creation time. The data shows a production count of 5,135 bags by user 新谷 凌也 (Ryusei Niigaki) at 13:48. Below the table, there is a section for "想定PL収量取得" (Target PL Harvesting) with the value 0118. A red note indicates that the harvest date should be entered as a 4-digit number (e.g., 0401 for April 1st). At the bottom, there is a bar chart titled "ミックス" (Mix) showing "ミックス生産数" (Mix Production Count) at 831 and "ミックス合計数" (Mix Total Count) at 831, with a 0.0% deviation.

On the right side of the screen, there is a comment thread titled "コメントを書き込む" (Write Comment). The thread contains three comments:

- Comment 8: 地蔵 直哉 (Naoyuki Chizō) at 19:39 on 2015-01-20. Text: "@新谷 凌也 @谷口 聡 良い議論ですね。引き続き切磋琢磨お願いいたします。" (Great discussion, @Ryusei Niigaki @Tomoya Taniguchi. Please continue to improve each other.)
- Comment 7: 谷口 聡 (Tomoya Taniguchi) at 17:54 on 2015-01-20. Text: "@新谷 凌也 ありがとうございます。ルビーの長さを救うために0.5℃気温と水温を上げた結果、重量（株張り）の点でマイナスに働いたということですね。理解できました。" (Thank you, @Ryusei Niigaki. As a result of raising the temperature and water temperature by 0.5°C to save the rubies, it worked negatively in terms of weight (plant growth). I understand.)
- Comment 6: 新谷 凌也 (Ryusei Niigaki) at 17:47 on 2015-01-20. Text: "@谷口 聡 うまくマッチしていないについての回答・・・年末、年始の日照量不足を補う為、A棟のハウス内温度を基本設定より+0.5度、水温も+0.5度上げ、ルビーの株長をベストのところまで回復させました。（収穫予定日より3日遅れは年末より変わっていませんが）本来もっと遅れる物をロイヤルルビーが出ました。" (Response to @Tomoya Taniguchi regarding the mismatch... To compensate for insufficient sunlight at the end of the year and beginning of the year, we raised the indoor temperature of the A building by +0.5 degrees from the basic setting, and the water temperature by +0.5 degrees, and recovered the ruby plant length to the best level. (The 3-day delay from the harvest schedule is not different from last year, but the royal rubies came out.)

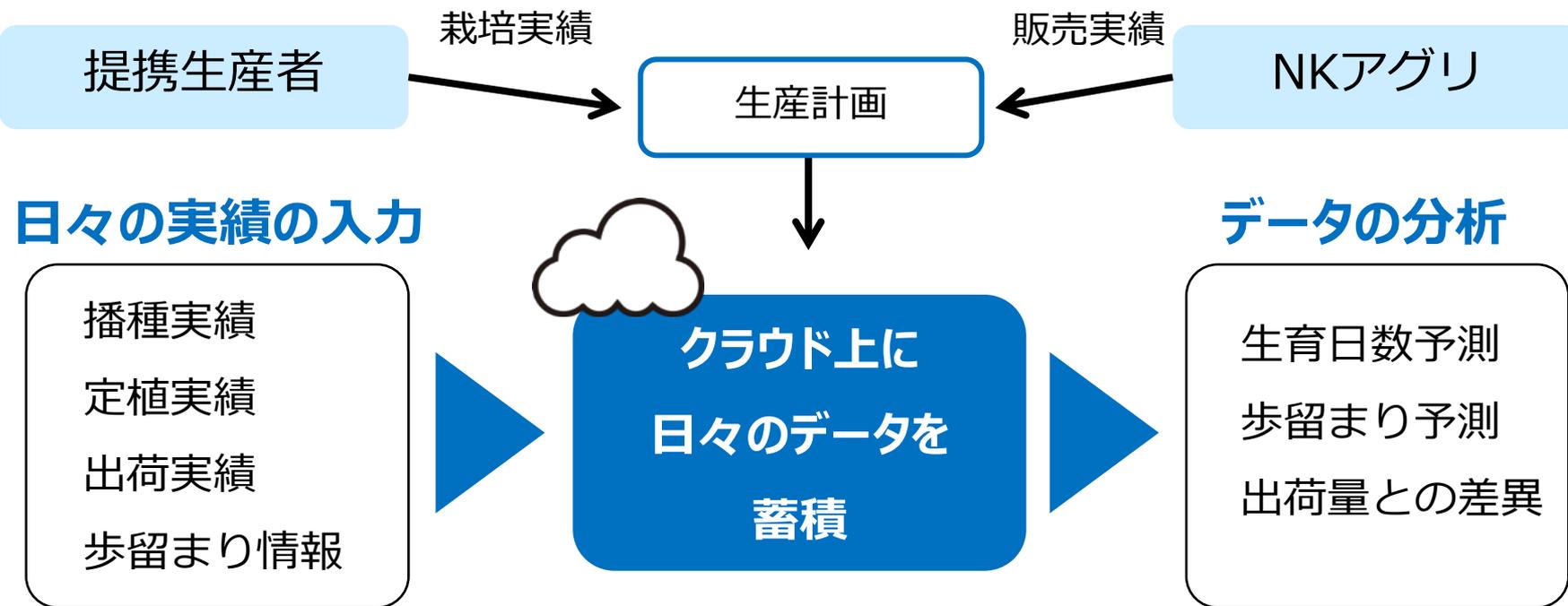
- ✓ 社内の情報共有の円滑化（議論が透明化）

- ✓ 製販の需給調整の精度が劇的に向上

→2015年1月の植物工場の販売ロス0.04%

導入効果② 距離を超えたチームが出来る

- ✓ 遠隔地の提携生産者との情報共有の円滑化、情報格差解消



- ✓ 生産量の予測精度の向上→販売単価が上がり、欠品リスクが減る
- ✓ 同時に環境データも収集分析することで、栽培技術向上